

3.11 こよみのよぶね 岐阜から石巻へ



岐阜から東北へとつながる灯りと時



金華山の麓、長良川に浮かぶ明かりたち。

『岐阜の冬の祭り「こよみのよぶね」の美しさと思いを東北の被災地に運びたい』

そんな気持ちで立ち上げたプロジェクトです。

暦は時を刻みます。

運ぶこよみは「2011」。

震災が起き、復旧・復興、これからの未来を含んだ希望の数字。

石巻でデザインし、岐阜と東京で2つずつ数字をつくり、

石巻で和紙を貼ってもらい、旧北上川の水辺で点灯する。

その数字が東京の墨田川で11月に、

最後に12月に岐阜にもどってきて冬至の日の長良川を灯す。

[こよみのよぶね岐阜から石巻へプロジェクト]

庭 JAPAN プロジェクト第3フェーズの一環として「こよみのよぶね」を岐阜から東京を経由し石巻へ運び、そして石巻から東京、岐阜へと思いをつなげながら運んで行きます。こよみのよぶねとは2010年10月に行われた「第1回全日本庭サミット 庭 JAPAN 庭とアート」に特別講師として登場していただいたアーティストの日比野克彦氏がはじめた岐阜の冬のお祭りです。今年で6回目になるこよみのよぶね、去年は東京のスカイツリーの真下、墨田川でも行われました。第2回からこよみの船への取り付けを庭 JAPAN が担当しており、毎年水と灯りの美しさに酔いしれながら、様々なアーティストや美しいモノに対する意識の高い方々とガッツリ交流させていただいています。

そのこよみのよぶねを今年は宮城県の石巻市へ運びます。

「水と生きてきた私らだから」

石巻で何度か聞いた言葉。

まわりは津波で壊されたガレキ、地面いっぱい広がるへドロだらけの世界で地元の人達の口から出てきた言葉。

最初はまったく飲み込めず自分の体がこの言葉を拒否していたが、時間と共に体の中に浸透していった。何があっても人は水なしには生きられない。なら自分達が毎年目にしている水のうえでの美しい景色を運びたい。場所は庭 JAPAN プロジェクトでずっと活動している石巻の津波が遡っていった旧北上川。

地元の漁師さんたちの漁船にこよみの行燈を取り付け現地の人やボランティアのみんなど水と闇と灯りを見つめる。

心に庭をもつすべての庭 JAPANの人たちにとっても特別な経験になるはず。年末の忙しい時期ですが一人でも多くの人とこの経験を共有できたらいいな、と思っています。

宮城県に行くには時間がちょっとという方は岐阜県と東京都で行われているワークショップに参加いただけますので、気持ちと形をこよみに乗せてください。

※岐阜ワークショップ情報(こよみのよぶねHP) : <http://www.dnaand.org/yobune.html>

※東京ワークショップ情報(リーダー中島佑太ブログ) : <http://houseof.exblog.jp/>

□タイムスケジュール

- ① 石巻市民にこよみ(数字)のデザインをしてもらう ~10/16(日)
↓
- ② 日比野克彦氏によるこよみの選考 ~10/21(金)
↓
- ③ 選ばれた数字の竹組みと和紙はりを岐阜と東京のボランティアスタッフの手により行う ~11/10(木)
※各2数字ずつ制作
↓
- ④ 岐阜発 11/11(金) 東京、石巻とリレーで運ぶ
↓
- ⑤ 東京発 11/12(土)
午後から岐阜と東京のみなさんとボランティア、石巻の仮設住宅の人たちの手による和紙はり
※可能であれば1~2数字
↓
- ⑥ 旧北上川での点灯式 一設営、取外しー 11月13日(日)予定
↓
- ⑦ 石巻発 11/19(土) 東京へ運ぶ
↓
- ⑧ 墨田川での点灯式 一設営、取外しー 11月20日(日)
↓
- ⑨ 東京発 11/21(月) 岐阜へ運ぶ

↓

⑩ 長良川での点灯式 ー設営、取外しー 12月22日(木)冬至の夜

↓

⑪ 長良天神さんでの左義長式 2012年1月

デザイン

石巻市社会福祉協議会やボランティアの人たちが2011の4数字をデザイン

和紙づくり

石巻市仮設住宅、東京、岐阜でのワークショップ〈和紙染め、和紙はり、メッセージ書き〉

行う場所〈現在石巻サイドと調整中〉

宮城県石巻市旧北上川のどこか

点灯式の時間帯

16:00ー20:00頃

こよみのサイズ

高さ 3.0m 横幅 1.5ー1.8m 厚み 0.5ー0.8m

使用する船

漁師さんの漁船〈×4艘か、1艘につき2数字の×2艘か? 調整中〉

船への取り付け

1つの数字の取り付けに2時間弱が目安

庭 JAPANのメンバーが船を傷つけないよう慎重に取り付けます

□船からの取り外し

20:00-21:30頃

点灯式終了後1つの数字につき20分ほどで取り外し

[こよみのよぶね隅田川 , G T S とは]

川は時間の流れをイメージさせる。歴史のある土地がまた新たな歴史を刻もうとしている。時の目盛である数字をモチーフとした巨大行燈を水に浮かべて、過ぎゆく時、迎える時に想いを馳せる。川を通じて遠くの地域と繋がることにより、川のある地域の交流の可能性を追求する。また地域の人と学生が制作することにより今後の活動の人間関係を形成させていく。巨大数字行燈は竹を骨組みにし、和紙を表面に貼り、中に電球を入れる。それを船に取り付け、川面にあかりが映り込むように停泊させる。

「G T S 観光アートプロジェクト事業」は東京藝術大学・台東区・墨田区の共催で実施されます。東京藝術大学大学院では従来、各専攻や研究室中心の個別な研究活動が行われてきました。しかしそれは次第に、現代の芸術の状況とリンクしながら、芸術の国際コミュニケーション、社会との関係性、表現の多様性、地域への貢献・活性化など、大学の枠組みを越えたプロジェクト型の研究表現活動として展開を見せるようになりました。

本年度からスタートするこのプロジェクトは、平成22年度から24年度までの3年間の計画として実施します。本学各分野における創作研究のノウハウを結集した複合的な芸術分野のプロジェクトを展開する試みであり、東京スカイツリーから浅草を結ぶ地域を芸術によってミュージアム化し、新しい形のコミュニケーションを創出すると共に地域に貢献する芸術環境拠点の形成と新しい芸術の発信地となる地域創成を目指します。

URL : <http://gts-sap.jp/>

[長良川おんぱく とは]

岐阜市の川原町界限（岐阜公園周辺エリア）を中心に、10月の1ヶ月間に100の体験交流プログラムを開催します。平成20年8月「明日の宝もの」として認定を受けた川原町界限は、まちづくり会による景観整備や飲食業などの出店が徐々に進んでおり、新たな川原町界限（岐阜公園周辺エリア）の魅力をお伝えいたします。

長良川おんぱくを通して、まちの人が主役になり、新たな連携が生まれ、100のプログラムを通じて、出会いと感動が生まれてくるのです。

※「3. 1 1 こよみのよぶね 岐阜から石巻へ」は長良川おんぱくのプログラムの1つに選ばれています

URL : <http://nagaragawa.onpaku.asia/>

[庭 JAPAN とは]

庭 JAPAN というのは、‘ 心に庭をもち 人と人のあるつかみ所のない場所で フワフワとした種を植える ’ をキーワードに、庭師を中心として肩書きや職種を問わず共感する人たちが集っている団体です。

これまで6回にわたり 全日本庭サミット 庭 JAPAN を開催し、全国の様々な人達と知り合い、情報網をつくってきました。

この他にも鳥取県倉吉市での古民家の庭の修復をはじめ、地域と文化のつながりをつくるワークショップとして岐阜県長良川の冬のお祭り「こよみのよぶね」の巨大行灯の制作・取り付けに関わるなど、庭を通して人と人、人と家、人と自然をつなげる間のもの、何かと何かの中間に位置する『必要ではないがあるべきモノ』を大切に考えてきました。

そして2011年3月11日の大地震を受け、私たちは東日本大震災復興支援プロジェクト 庭 JAPAN を立ち上げました。

それは、連係がとれるチームで動けば大きな力になる事ができると考えたからです。

被災地では特に泥出しや瓦礫の撤去が必要とされています。

土を扱っている庭師の能力を生かせる仕事です。

そして、私たちは木を植えることができます。

庭 JAPAN はゆるやかな集まりですが、様々な立場の人間がどこかで共有するものを感じてつながってきました。

庭師の仕事だけに関わらず、それぞれができることをしていくことが細くとも長い熱となり、今後長期に渡るであろう復興の原動力になればと考えます。

また活動を通して被災地の生の声を多くの人達に伝えていきたいと思えます。

URL : <http://niwajapanproject.blog.shinobi.jp/>